

D—1 子どもの人格形成と家庭教育 ——人格形成の場面状況について——

東京家政学院大 黒田 淑子

1. 子どもの人格形成とは「自己・人・物との関係状況における子どもの関係の仕方が、諸関係の発展をもたらすように形成されていくこと（松村康平教授，関係弁証法の立場）」である。本研究においては，子どもの人格形成を促進する具体的な場面状況について「関係（構造とその変化）」「保育者の役割の果たし方」「子どもに育つ活動（役割行為）」を明らかにし，人格教育の進め方について考察する。

2. 行為法による研究 心理劇によって，実生活に対応する生活縮図的場面を構成し，理論体系に位置づけられる現象的事実（具体的な関係の動き，関係体験，役割体験）を媒介にして考察を進める。（大学生を対象とする“家庭教育”の実習，具体例「子どもの質問」場面について）

3. 「子どもの質問」場面においては，「課題との関係を媒介にして子どもと保育者との関係が展開する」「保育者との関係を媒介にして子どもの自己活動が進み，子どもと課題との関係が展開する」などの特殊状況を把握できる。これらの状況において，子どもの活動（対自関係：発見を先へのばす自発的活動，対人関係：人との共通参加体験活動，対課題関係：課題にとりくむ活動）がのび，子どもの可能性がひろがるように，保育者は創造的役割をとっていかななければならない。関係の発展をもたらす三者関係的認識の仕方，行為の仕方が重要である。